

令和 8 年度 国立若狭湾青少年自然の家 教育事業 報告書

ファミリーデー① (R8.7.19-20)

事業概要

○ねらい

- ①海と直接ふれあうことで、海への親しみや愛着、関心を高める
- ②海での体験活動をととして、自己肯定感や自尊感情をはぐくみ、心の成長を促す
- ③親子が楽しい時間を共有することで、絆を深める機会とする

○参加実績

- ・日帰り…40 家族 149 名
- ・前泊…40 家族 162 名
- 計 80 家族 311 名

※参考:昨年度実績(R7 ファミリーデー②)

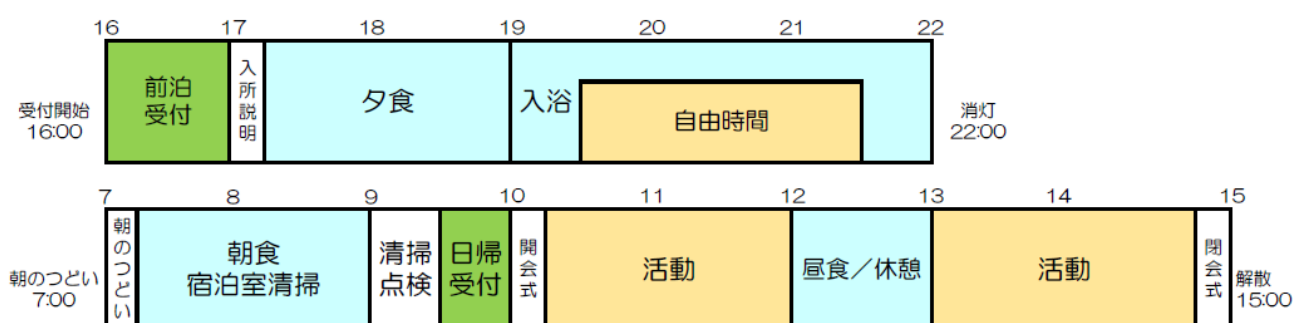
- ・日帰り…15 家族 50 名
- ・宿泊…39 家族 158 名
- 計 54 家族 208 名

○スタッフ

- ・自然の家職員 14 名(所長、次長、企画指導専門職、総務・管理係、事業推進係)
- ・水泳監視員 2 名
- ・ボランティア 3 名

○日程

- ・家族ごとのペースで、家族の希望に合わせた海活動選んで楽しんでもらえるよう、決められた時間内及び活動内容で家族ごとの自由行動とし、終了時間前でも帰宅できることを予め伝えた。
- ・カヌー活動については、活動時間を十分に確保できるよう、また家族で計画的に過ごしてもらえるように事前予約制とした。
- ・19 日夜の自由時間内で、たき火を囲む会を行った。



活動内容

水泳…水泳エリア A、B を使った水泳活動。水泳監視員 2 名に加え、自然の家職員を各エリアの飛び込みイカダに各 1 名配置した。はじめは、波打ち際で様子を見ている子どもも多かったが、周りから魚の情報を聞いたり、イカダから飛び込んだりする姿を見て、徐々に海に慣れていく姿が見られた。大人が海を楽しむ中で、子どもたちの楽しみも引き出せる場になっていた。



磯観察、磯遊び…活動前に「タイドプールにいる生き物」として観察できるように、職員が捕まえた生き物をバケツに入れておくことで、「自分でも探したい」「捕まえない」という活動意欲につながった。見つけた生き物を誇らしげにバケツに入れに来ってくれる参加者も多く、バケツの中にはたくさんの生き物が集まった。生き物を通して参加者同士での会話が生まれたり、生き物について職員に尋ねたりしながら観察することができた。なかなか見つけれない参加者には、「浅瀬で石をめくるとカニがいる」など見つけ方のコツを伝えると試行錯誤しながら探すことができていた。

ターザンロープ飛び込み…カッター栈橋にて、ロープを用いた飛び込みの体験を実施した。当日は、自然の家職員とボランティアスタッフ計3名を配置し、1人はレスキューチューブを水中で持った状態で待機し、飛び込み先に人がいないかの確認や、飛び込み後のサポートなどを行い、安全に配慮した。10回以上飛び込みにチャレンジする参加者がいた他、飛び込みに恐怖感を持っている参加者には、栈橋上にいるスタッフが補助しつつ、次第に飛び込み距離を伸ばしていき、最後にはロープを使った飛び込みにチャレンジできるようにするなどした。「なるべく遠くへ飛び込む」「痛くないように着水する」など、思い通りのチャレンジができる活動となった。



カヌー…ボートエリア内でのカヌー活動。事前に希望を取り、1家族30分で活動した。自然の家職員1名、ボランティアスタッフ1名を配置し、安全管理上の説明やパドルの使い方の説明、出艇や帰着の支援などを行った。エリアを目いっぱい広く使って漕ぐ家族、漕ぎ方を話し合いながら漕いでいる家族など、それぞれに楽しんで参加している様子が見られた。午後から風波が強くなり、水泳エリア内に流される艇が5、6艇あったが、水泳エリア担当職員が艇を押して泳ぎ、事故無くボートエリアに戻って来ることができていた。

たき火を囲む会…前泊者を対象に19日夜に大浜で実施。「ゆったりと過ごす」をテーマに、レクリエーションなどは行わず、火を眺めたり、砂浜に寝転んで星を見上げる家族の姿が見られた。また、小さな焚火台を用意して、持ち込んだマシュマロなどの食材(生もの不可)を焼いて食べられる設定とした。演奏自由のギター演奏やマシュマロ焼きをしながら、穏やかな時間を多くの家族が楽しんでいる姿が見られた。



参加者の声（アンケート[回答率:55% 44/80 家族]）

事業全体の満足度、海への関心、親子の絆、子どもの挑戦機会に関する設問について、いずれも高い評価となった。

1. 回答選択式(択一)の集計

①事業に参加して、いかがでしたか 割合(%)

とても満足している	43	97.7
少し満足している	1	2.3
あまり満足しなかった	0	0
まったく満足しなかった	0	0

②参加して、海への親しみや愛着、関心は 割合(%)

とても高まった	39	88.6
少し高まった	5	11.4
あまり高まらなかった	0	0
まったく高まらなかった	0	0

③親子で楽しい時間を共有し、親子の絆が 割合(%)

とても深まった	42	95.5
少し深まった	2	4.5
あまり深まらなかった	0	0
まったく深まらなかった	0	0

④事業中、お子さんがチャレンジする場面が 割合(%)

たくさんあった	36	81.1
少しあった	8	18.9
あまりなかった	0	0
まったくなかった	0	0

⑤スタッフ(職員、ボランティア)の対応はいかがでしたか 割合(%)

とてもよかった	44	100
まあまあよかった	0	0
あまりよくなかった	0	0
とてもよくなかった	0	0

⑥この事業を何で知りましたか 割合(%)

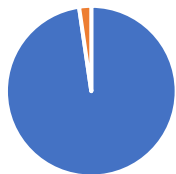
若狭湾青少年自然の家ホームページ	18	40.9
若狭湾青少年自然の家 facebook、instagram	10	22.7
知人の紹介	10	22.7
市町村が発行している広報誌	1	2.2
その他	5	11.4

⑦秋期、冬期にファミリーデーが行われた場合、参加したいと思いますか 割合(%)

参加したい	28	63.6
条件付きで参加したい	12	27.3
参加しない	4	9.1

[グラフ]

①事業に参加して、いかがでしたか



■ とても満足している ■ 少し満足している
■ あまり満足しなかった ■ 全く満足しなかった

②参加して、海への親しみや愛着、関心は



■ とても高まった ■ 少し高まった
■ あまり高まらなかった ■ まったく高まらなかった

③親子で楽しい時間を共有し、親子の絆が



■ とても深まった ■ 少し深まった
■ あまり深まらなかった ■ まったく深まらなかった

④事業中、お子さんがチャレンジする場面が



■ たくさんあった ■ すこしあった
■ あまりなかった ■ まったくなかった

⑤スタッフ（職員、ボランティア）の対応はいかがでしたか



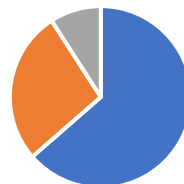
■ とてもよかった ■ まあまあよかった
■ あまりよくなかった ■ とてもよくなかった

⑥この事業を何で知りましたか



■ 若狭湾青少年自然の家ホームページ
■ 若狭湾青少年自然の家facebook、instagram
■ 知人の紹介市町村が発行している広報誌
■ 市町村が発行している広報誌
■ その他

⑦秋期、冬期にファミリーデーが行われた場合、参加したいと思いますか



■ 参加したい ■ 条件付きで参加したい
■ 参加しない

2.「ねらい」に対する成果について

事業のねらいに対する成果について、参加者の声の分析を通して考察する。

ねらい①海と直接ふれあうことで、海への親しみや愛着、関心を高める

アンケートでは海への親しみや愛着、関心の高まりについて肯定的回答が 100%であった。自由記述においても海の美しさや生き物への関心を示す意見が多く、海への親しみや愛着を高めることができたと考える。

関連アンケート記述

「海が綺麗」

「福井の海って綺麗だね！」

「魚が見えるくらい透き通った海は初めて」

「海の生き物に普段決して虫など自然の生き物に興味を示さない子が、目を輝かせながら探したこと」

ねらい②海での体験活動をととして、自己肯定感や自尊感情をはぐくみ、心の成長を促す

チャレンジする場面があったとの回答が 100%であった。ターザンロープやカヌーへの挑戦、また繰り返しの取組や積み重ねなどを通して、自ら困難に向き合う姿が多く見られ、自己肯定感や自尊感情の育成につながったと考える。

関連アンケート記述

「ターザンロープを怖がっていましたが、低いところからやらせてもらって克服できた感じがありました」

「去年は怖くて乗れなかった。初めてのカヌー大喜びでした！」

「足のつかないところでも、浮き輪をつけて、果敢に挑戦していたところ」

「飛び込みを18回できた！今度は20回飛び込む！」

ねらい③親子が楽しい時間を共有することで、絆を深める機会とする

親子の絆が深まったとの回答が 100%であった。親子で楽しい時間を共有し、家族の絆を深める機会となった。

関連アンケート記述

「親子で楽しめた」

「最高の夏休みだ」

「家族で行く海水浴とは違ったこと(ターザンロープや飛び込み、磯観察)ができて、とても楽しかったようです」

3. 秋季・冬季のファミリーデーについて

本事業のアンケートにおいて、秋季・冬季のファミリーデーについての意見を収集した。秋季・冬季にファミリーデーを開催した場合、63.6%の参加者が「参加したい」と回答しており、需要の高さが垣間見えた。今後のファミリーデー企画の一つの指針となるよう、本報告書にて分析および考察を行う。

●秋季、冬季のファミリーデーに条件付きで参加したい、参加しないとお答えした方に伺います。条件、理由を教えてください

(1)活動内容が分からない・イメージできない

「プログラムによっては参加したいなと思っています」

「海水浴以外にどのような活動ができるのか、分からないから」

「内容が分からないので…。内容次第です」

「家族で楽しめる秋冬の魅力が理解できていないので判断できませんでした」

「秋冬の活動の内容があまり想像できないため」

分析⇒最も多く見られたのは、「参加したくない」ではなく、活動内容がイメージできないため判断できないという意見であった。夏季事業は海水浴や海洋活動という分かりやすい魅力がある一方、秋季・冬季事業については具体的な活動内容が伝わらなければ参加判断に繋がりにくいことが分かった。

対策⇒募集段階で活動内容を具体的に示す。「秋なら〇〇」「冬なら〇〇」を明確に打ち出す。

(2)距離・交通面の課題

「距離が遠いので、宿泊ができること」

「家から遠いので、行けそうであれば参加したい」

「遠方のため」

「慣れない雪道で運転が困難なため」

「雪では行くのが難しい」

分析⇒参加を希望する意向はあるものの、距離、移動時間、冬季の道路事情に不安を感じている参加者が見られた。特に冬季は活動内容以上に、雪道運転への不安が参加判断に影響していることがうかがえる。

対策⇒宿泊事業を継続。アクセスしやすい場所での開催。

(3)事業への期待・参加意欲

「子供が行きたいと言ったらぜひ参加したいです」

「自然に触れ合いながら、仲間と関わる機会はとても大事だから」

「なかなか自然に触れる機会がとれないので、ファミリーで参加できるものがあれば参加したいです」

分析⇒参加条件を挙げた回答者の中にも、自然体験や家族体験への期待を示す意見が多く見られた。

「条件付きで参加したい」と回答した層の多くは消極的ではなく、活動内容や実施条件が整えば参加につながる可能性が高いと考えられる。

まとめ

秋季・冬季ファミリーデーへの参加については、「活動内容がイメージできない」という意見が最も多く見られた。一方で、自然体験や親子交流への期待を示す回答も多く、参加意欲そのものは高い傾向がうかがわれた。また、遠方からの参加者については距離や冬季の交通事情への不安も見られた。今後は、秋季・冬季ならではの活動内容や魅力を具体的に周知するとともに、開催場所を自然の家ではなく降雪の少ない場所で設定するなど積雪に配慮することで、参加者の不安軽減と参加促進につながると考えられる。

●秋期、冬期のファミリーデーが行われるなら、どのようなことをやってみたいですか

(1)自然観察・環境学習

星空観察 野鳥観察 海の生き物観察 昆虫観察 漂着物調査 ビーチコーミング シーグラス拾い
植物観察 森林浴

(2)海洋・水辺活動

スキューバダイビング 磯釣り 魚つかみ ヨット カヌー

(3)キャンプ・焚火・アウトドア体験

キャンプ キャンプファイヤー 火起こし BBQ 浜焼き マシュマロ焼き 焼き芋
ナイトハイク オリエンテーリング ハイキング

(4)冬季活動・雪遊び

雪遊び そり遊び かまくらづくり 雪像づくり

(5)クラフト・創作活動

物作り 落ち葉アート リースづくり ツリーづくり

(6)レクリエーション・交流活動

クイズラリー レクリエーションゲーム ビーチフラッグ 探検活動

まとめ

秋季・冬季事業に対するニーズとしては、「自然観察・環境学習」「海洋活動」「キャンプ・焚火等のアウトドア体験」への要望が特に多く見られた。また、雪遊びや自然物を活かしたクラフト活動など季節特有の体験を求める声も多かった。今後事業を企画する際には、季節性を活かした自然体験と家族交流を組み合わせたプログラム構成が有効であると考えられる。

事業運営のツボ、工夫、課題

〔ツボ・工夫〕

- ・これまで水着のままでの食堂利用は不可としていたが、参加者の皆様に食堂でのバイキングを楽しんでいただくため、動線や食堂使用上のルールを設定することで食堂使用の許可を得て、参加者の皆様に食事を楽しんでいただくことができた。
- ・乳幼児や高齢者がいる家庭は移動が少なくなるよう、活動場所に近い宿泊棟に割り振るなど、配慮して配室した。
- ・活動時間開始直後と終了直前にライフジャケット置き場に職員を配置し、正しい着用方法や片付け方をアナウンスした。また、大きな洗い桶を準備し、利用者が片づけやすいように配慮した。
- ・清掃チェックリストを配布し、退所点検がスムーズに行えるようにした。
- ・昨年度のファミリーデーのアンケート結果を反映させ、カヌーのプログラムを復活させた。
- ・普段運用していない宿泊棟を清掃、整備して使えるようにしたり、職員駐車場を施設から離れた場所に設定したりすることで、できる限り多くの方にお越しいただけるようにした。結果、当初の予定定員数より多くの申し込みをいただいたものの、申し込まないでいただいた全家族にお越しいただくことができた。

〔課題〕

- ・海⇄館内の動線設定が曖昧であり、参加者の移動の負担を増してしまった。
- ・館内の案内標示が不十分であり、「〇〇はどこですか」というご質問を当日に多くいただくことになった。

担当者総括

本年度の参加者数は 80 家族 311 名となり昨年度の2回のファミリーデーを大きく上回った。満足度は 97.7%が「とても満足」と回答しており、本事業は親子交流と子どもの成長を促進する教育事業として高い成果を上げたと考える。

また、昨年度は事業推進係主体の事業であったが、施設全体で取り組む事業と位置づけなおすことで、より大きな規模で実施することができ、「ファミリーデー①」において新たに取り組めたこともあった。しかしながら、海の活動を楽しめたという声を多くいただいている一方、改善させるべきポイントについても多くご意見をいただいている。「ファミリーデー」事業全体のブラッシュアップを今後も継続的に重ねていきたい。

ファミリーデーは、本年度内での追加開催も決定し、若狭湾の一つの目玉事業となっていく可能性がある。何より、若狭湾の自然を楽しみに毎年参加してくださる方々のためにも、皆様に満足していただけるような事業としていきたい。